



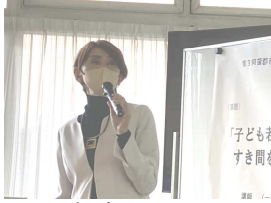
くすのき



No.109

R4年12月発行

◆ 子ども・若者支援のすき間を埋める連携について ◆



令和4年度第3回「子ども・若者支援ネットワーク協議会」実務者会議が11月21日(月)に市役所北棟集会室にて開催されました。今回は、一般社団法人東三河セーフティネット代表理事の金田文子氏による表記のタイトルでの講演会です。コロナの影響で実に3年ぶりの実施でした。

0歳(生まれたとき)~39歳まで(自立するまで)には様々な困ったことが起こる可能性があるということで、平成23年に国が「子ども・若者育成支援推進法」を成立させました。これがきっかけとなり、単一の機関・制度では解決できない子ども・若者が抱える多様な困りごとに対応してきた東三河セーフティネットの立ち上げの経緯が紹介されました。

続いて、参加者によるグループワークが行われました。グループ分けをお願いしたら、5グループにさっと分かれてくださいました。参加者の意欲や協力する気持ちが伺える場面でした。第1課題は「皆さんの機関には、どんな特徴がありますか?」公共か民間か?体験型か対話型か?緊急を要するか継続を追求するか?来所形式か訪問形式か?個別対応かグループ対応か?です。第2課題は「自分の所属している機関で不足している連携機能を紹介しよう」~こんな役割を担ってくれるところ、どこかないかしら?~です。

どのグループも、活発な意見交換がなされました。最後に各グループの代表が話し合いの内容を発表しました。不登校の居場所として、岡崎市の校内フリースクールやホームフレンドの制度などが例に出ました。また、参加された保護司の方の体験談は、初めて聞く内容で、とても勉強になったそうです。また、守秘義務の扱い方が話し合わせられ、子ども若者相談窓口や福祉総合相談窓口などの「市民が本当に困ったら相談できる場所」がいくつかあることを市民に周知していくことが必要だと言った意見が出されました。

代表の発言に金田さんが適切なアドバイスを送っていくという形で進行しました。一番心に残ったことは、「つなが」でした。支援する機関と機関よりも、まずは人と人がつながることを大切にした連携を心がけて、本市の支援ネットワークがさらに発展していくことを願います。

◆ 十二月二十日、月十日は
 青少年の非行被害防止に取り組む
 県民運動(冬期) 実施期間です ◆

◆ 形原班 寺元幸治さん

蒲郡市功績者表彰受賞 ◆

11月4日(金)蒲郡市役所庁議室で、長年に渡る少年補導活動に対して蒲郡市功績者表彰を受賞されました。おめでとうございます。



1月の補導予定

- 大塚班 各自補導
- 三谷班 各自補導
- 蒲郡班 各自補導
- 中部班 13日(金)18:00 蒲西小学校
- 塩津班 各自補導
- 形原班 12日(木)18:00 形原中(教員のみ)
- 西浦班 各自補導

よろしく
 お願いします



◆ 編集後記 ◆ サッカーワールドカップが開催されています。現地でホットな話題は、初戦でドイツを破った日本チームの強さと、日本人サポーターによる試合後の清掃活動のことです。日本人のマナーの良さ、使った場所は使う前よりきれいにして戻す精神、会場や職員への感謝の心...世界中で称賛され、誇らしいことです。すべての日本人が日常の各所でこの精神やマナーを身につけ実践してほしいですね。

